
Part B ライティング

1 以下はグローバルコミュニケーションの現場で使われる用語です。日本語は英語の、英語は日本語の単語（名詞）の訳語を解答用紙に記入してください。正確なスペリング、(当てはまる場合は)漢字で解答してください。

- ① conglomerate
- ② 人材
- ③ 小売価格
- ④ classified ad
- ⑤ 憲法
- ⑥ 大統領選挙
- ⑦ curfew
- ⑧ casualties
- ⑨ statistics
- ⑩ drought
- ⑪ airborne infection
- ⑫ malnutrition
- ⑬ fertilizer
- ⑭ orbit
- ⑮ 化石

2

次の文章を読み、指示に従って質問に答えてください。解答は全て英語で記入してください。

インドの現地法人社長の川島さんは、エンジニアの採用方法がどうにかならないかと思っていた。それは少数のエンジニアを募集しても、大変多くの人が応募してくるため、選考に余りに手間がかかるからである。

そこで現地採用した人事部長に相談したところ、

「オープンハウス (Open House) 方式でやったらどうですか」

との提案があった。初めて聞く言葉なので詳細を聞くと、使えそうではないか。そこで川島さんは、「次の募集の時には、この方式でいこう」と決めていた。

今回の募集人員は 10 名と決め、新聞に広告を出した。オープンハウスを開くのは土曜日である。当日数百名の応募者が、オープンハウスの会場である会社の前に並んだ。

会場の 1 階には、まず募集職種である電気、機械などの専門分野ごとに窓口が設けられている。応募者はまず自分の専門分野の窓口に行って、履歴書を出すことから始める。窓口には人事の担当者が座り、提出された履歴書をその場でチェックし、会社の希望に合わない者は落としていく。

この段階を通った応募者は 2 階に上がり、専門分野ごとに現地マネージャーが面接を行う。ここでは、これまでの経験や能力が厳しく評価される。

この面接をパスした応募者は、最後に人事担当者と会い、給与などの処遇条件について話し合う。応募者は日本と違って、希望の条件を明確に提示する。この段階では最終の結論は出さずに、応募者との話し合いの結果を社内で改めて検討し、最終結果を文書で通知する。

このオープンハウス方式を見ていた川島さんは、「従来の方法より手間がかからなくていい。これからも続けよう」と考えている。

※以下は各設問のタスクを説明したもので、実際の問題文ではありません。

Q1【情報分析力】

課題文の中で使われている「用語」を解説するタスクです。簡潔で分かり易い説明は、情報の分析・理解度の高さを反映します。

Q2【創造的思考力】

課題文の中の「状況」展開を考えるタスクです。正確な状況把握にもとづき、諸々の知見や経験を背景に「先を見通す」力が評価の対象です。

Q3【問題解決力】

的確な問題把握と解決法の提案力を問うタスクです。具体的で即実行性があり、確実に、想定される結果につながる対策を問います。提案は一目瞭然であることに留意。

Q4【要点把握力】

情報の重要度を理解し、「報告」という形態に整理するタスクです。評価視点は、「読む側への配慮」です。字数制限を考慮した簡潔性と分かり易い組み立てがポイントです。